



▶式には各分団から約500人が参加。訓練の成果を披露しました。

湖面上に連なるアーチ
一年の決意を新たにする安来市消防出初式を1月12日、総合文化ホールアルテピアで行いました。式典後には安来港に移動し、服装や機械器具の点検。その後、中海めがけて一斉に放水訓練を行いました。44台の車両から放たれるアーチが、湖面上に連なりました。
安来市消防団の山本純団長は「令和初めての出初式でしたが、団員の動きは機敏でした。市民の皆さんを安心安全に導いていきたい。何事もないのがいちばんですが」と話していました。

海を越える希望の放送
北朝鮮に向けたラジオ放送の公開収録が1月19日、総合文化ホールアルテピアで開催されました。元拉致被害者の情報によると、北朝鮮では隠れてラジオを聴いている人が少なくないとのこと。このため日本から北朝鮮に向けて毎日、深夜に短波放送を送り続けています。
ステージでは、拉致被害者や特定失踪者の家族による応援メッセージ、地元音楽団体等のコンサートの様子などが収録されました。

▶参加した近藤市長も「皆さんが日本へ帰ってくることを待ち望んでいます」と呼びかけました。



災害時の復旧活動に一役

日々、多くの観光客が訪れる「道の駅あらエッサ」にこの程、日本道路建設業協会中国支部から小型発電機と投光器が寄贈されました。同道の駅は、災害時の一時避難所でもあるため、災害時の備えが必須。今回寄贈された機器は、災害時に携帯電話の充電や照明のための電気供給に大きな役割を担います。

同協会の伏見光暁支部長は「災害が起きてしまった際の復旧活動などに活用してほしいです」と話していました。

▶目録と投光器を手渡す伏見支部長と近藤市長（右）。



▶関係者がカメラの起動ボタンを一緒に押しました。

安全・安心なまちに向けて
安来十神ライオンズクラブから市に防犯カメラが寄贈され、1月20日、設置場所の安来親子交流センターで運用開始式を行いました。

寄贈されたカメラは駐車場や県道などの様子が広範囲に映るよう玄関付近に設置。近隣に城谷保育所や南城谷公民館があることから、防犯への大きな役割が期待されます。

同クラブの原庸一会長は「防犯カメラを寄贈することで、犯罪の抑止に少しでも力になれば」と話していました。